

平成29年度 学校評価報告書 (目標設定 (実施結果))

|   | 視点       | 4年間の目標<br>(平成28年度策定)                             | 1年間の目標  | 取組の内容  |  | 校内評価   |  | 学校関係者評価<br>(3月10日実施)   | 総合評価 (4月2日実施)   |  |
|---|----------|--|---|--|--|--|--|--|---|--|
|   |          |  |   | 具体的な方策   | 評価の観点  | 達成状況   | 課題・改善方策等   |  | 成果と課題   | 改善方策等  |
| 1 | 教育課程学習指導 | 主体的・協働的な教育活動を通し、学習意欲を高め、課題解決力を育成するための教育課程の充実を図る。 | ①ICTの利活用や学びのサポート体制を充実させ、生徒によるアウトプットの実現や組織的に授業改善を図り主体的・協働的な学習を促進する。<br>②年次進行型単位制の教育課程を継続して検討する。                | ①ICTを利活用した授業やサポートティーチャー(以下ST)の活用、補習等により、生徒一人ひとりの特性や学習状況に応じたきめ細やかな学習支援を行う。<br>②引き続き、本校のミッションを踏まえ、生徒一人ひとりが進路実現できるような年次進行型単位制普通科高校としての教育課程の編成に取り組む。   | ①個に応じた指導を実施し、アウトプットの実現をすることができたか。補習指導やSTの活用・利用回数は前年度より増加したか。<br>②年次進行型単位制普通科高校としての完成年度を視野に入れた教育課程の編成に取り組むことができたか。                                      | ①ICTを使った授業に関するアンケートによると、「自主的な学びの支援につながったか。」の設問では、昨年度45%に対し今年度は52%に改善され、7ポイントの増加であった。<br>①補習受講者は前年度よりも減少したが、STの活用的是、復習から入試対策まで、全年次で大幅に増加した。<br>②年次進行型単位制普通科高校完成年度のシミュレーションを行うなどして、教育課程・履修方法に関する検討を行った。                            | ①ICT利活用授業の受講者の80%以上の生徒が、楽しく積極的に集中して取り組むことができたと回答し、昨年度の70%と比べ10ポイント増加した。今後も継続して自主的な学びの支援につながる授業を研究する。<br>①ST、スタディサプリ、補習等の活用を推進する工夫を行う。<br>②新入生の履修登録方法、平成31年度の教育課程・履修方法等について、引き続き検討を進める。 | (PTA)<br>①空き時間に自習室やSTがあるのはとても良い。次年度履修科目の事前補習を実施しているのは大変ありがたい。生徒もやる気が出て定期テストも効率良く学習でき、自主的に計画を立てて学習する習慣が身についている。<br>(学校評議員)<br>①ICTを活用することで授業に対する意識が変わるのは大変なこと。年次進行型が整備されることに期待している。スタディサプリを1年次で活用した生徒が継続できる環境をお願いしたい。 | ①勉強会で不器用な生徒が多いが、ICTの活用で思考が活発になり、表現力が向上した。発表は苦手だが、スピーチやプレゼンなど少しずつアウトプットが実現できている。<br>①STの利用は昨年実績を上回った。受験勉強のサポートの利用者も増えて、一般入試で希望校に合格した生徒もいる。 | ①ICT利活用の授業はさらに高い数値目標を設定して取り組んでいく。また、通信環境をさらに整備していく。<br>②平成31年度入学生教育課程・履修方法等について、引き続き検討を進める。  |
| 2 | 生徒指導・支援  | 豊かな感性と規範意識を育み、個に応じたきめ細やかな支援教育を推進する。              | ①基本的な生活習慣の定着を目指し、継続的かつ日常的な指導体制や方法を検証する。<br>②個に応じた支援に向け、きめ細やかな生徒指導・支援体制の充実を図る。<br>③特別活動の活性化を図り、生徒の主体的な行動を促進する。 | ①問題行動の未然防止のために職員間の共通理解による予防教育を徹底する。<br>②スクールカウンセラー(以下SC)、スクールソーシャルワーカー(以下SSW)及びその他の外部機関との連携をより強化し、複合的、複雑化している個別の課題に対応するため、チーム支援や職員研修のさらなる充実を図る。<br>③部活動への参加率向上に、教員と生徒のコミュニケーションの機会を増やす工夫をし、部活動の活性化を図る。 | ①生活指導通信、年次通信、年次集会等で言葉遣いや身だしなみなどの規範意識の醸成につなげることができたか。<br>②年次間での情報交換会の実施回数。<br>SC、SSWの相談による課題の解決度は増加したか。<br>③部活動参加率向上に向けた工夫はできたか。年度末における入部率30%以上は実現できたか。 | ①社会的なルールに関する指導を「生徒指導通信」の発行を増やし、「全校放送」などを通じて進めた。<br>②4月、7月、12月と3回の情報交換会議を行い、支援を必要とする生徒を把握できた。また外部機関と連携を図り教育相談体制の確立に努め相互に連絡を取り合い対応した。SSWにより相談体制を手厚くすることができた。「学校生活アンケート」で生徒の様子を把握し、「いじめ問題対策会議」を2回開き事案の対応等について検討した。<br>③入部率は33%となった。 | ①日常の生徒への声かけをし、問題行動の未然防止と早期発見に努める。また、社会的マナー違反に対し、引き続き全職員で即応できる体制を作りたい。<br>②今後も連絡をより密に取りながら、教育相談を充実させる。情報交換会議にあがる生徒を継続的に支援し、必要であれば外部機関へと繋げ支援する。  | (PTA)<br>①行事の給水サービスの時、ほとんどの生徒が「ごちそうさまでした」と一言挨拶してくれる。校内で迷子になっていると必ず誰かが案内してくれる。生徒は親切でみんな礼儀正しい。<br>(学校評議員)<br>②保健室を利用する生徒が多いと感じた。   | ①スタートかながわの推進校としてPTA役員にも協力いただき、自転車通学生徒に対して交通安全委員会の生徒による声かけ運動を行った。生徒同士で声をかけるという場面が作れたのは良かった。<br>②保健室の利用者が昨年度より減ったのは、50分以上滞在させない取り組みをした成果。   | ①交通事故の報告書様式を整備し、細かく把握する体制を整理する。<br>①業者等を活用SNSに関するトラブルについての指導の検討を進める。<br>②SSW・SCや外部相談機関や医療機関、関係団体との連携をさらに進める。<br>③部活動の活性化のための広報活動を盛んにし、より加入率の増加を図る。 |

|   | 視点           | 4年間の目標<br>(平成28年度策定)                     | 1年間の目標   | 取組の内容  |   | 校内評価   |   | 学校関係者評価<br>(3月10日実施)  | 総合評価(4月2日実施)  |  |
|---|--------------|--|--|--|---|--|---|---|---|--|
|   |              |  |  | 具体的な方策   | 評価の観点   | 達成状況   | 課題・改善方策等  |   | 成果と課題   | 改善方策等  |
| 3 | 進路指導・支援      | 生徒一人ひとりの進路実現を目指し、必要な基盤となる能力や態度を育成する。     | ①3年間を通して生徒の成長を促す系統のかつ個に応じたキャリア教育実践プログラムを充実させる。<br>②他者とのかかわりあいの中で内面の成長を促し、自己理解・他者理解を図り社会性を涵養する。 | ①組織的・体系的指導をより充実させるため、キャリア教育に関わるノウハウの年次間での引き継ぎや情報共有を図る。<br>②キャリアカウンセリング制度や組織的な補習・面接指導等、個に応じた指導を展開する。                  | ①キャリア教育に関わるノウハウの引継ぎや情報共有を行うことができたか。<br>②キャリアカウンセリング制度の利用者数を昨年度と同程度で維持できたか。                    | ①キャリア教育に関して年次間での引き継ぎや情報共有を積極的に行った。<br>②キャリアカウンセリングは延べ1252名、昨年度より増加した。<br>②進学・就職模擬面接は延べ348名となり、きめ細やかな支援ができた。  | ①「キャリアの時間」について他グループや各年次とのよりスムーズな連携について検討する。<br>①特に卒業年次生について年次内での情報共有と保護者との連携を密にする。<br>②キャリアカウンセリングや補習・面接指導等、組織的な支援の方法を工夫する。                                     | (PTA)<br>①細やかな進路指導に感謝している。大学進学も夢ではないと聞いてやる気スイッチが入った。<br>(学校評議員)<br>②保護者向けマネープラン講話は、進路への意識付けを早めに行い、生徒と一緒に考える良い機会となった。3年になってからでは遅い。これからも続けてほしい。 | ②キャリアカウンセリング制度を活用し、教員の支えで、進路が実現した生徒が多数いる。就職が決まった生徒へのセミナーも行った。<br>進路説明会に保護者対象のマネープランプログラムを設定した。      | ①高大接続改革にともなう入試方法の変更に向けて、生徒の様々な取り組みを記録として残していくポートフォリオを来年度から取り入れる。<br>②キャリアカウンセリング制度をさらに充実させる。 |
| 4 | 地域等との協働      | 地域や保護者等との連携・協働を促進し、学校の教育力向上を図る。          | ①地域や保護者等外部との連携を強化し、学校行事等の活性化を図る。<br>②ホームページを始め様々な方法や機会を捉え広く情報発信し、開かれた学校づくりを推進する。               | ①地域貢献デーの生徒の取り組みをさらに向上させるよう工夫し、日常的なボランティア活動につながる仕組みづくりを整備する。<br>②中学生とその保護者や地域の方々に年次進行型の単位制普通科の特色について理解を深めるための広報活動を行う。 | ①ボランティア活動に参加する生徒は増加したか。<br>①学校行事や地域のイベント等を通じた地域との交流は増加したか。<br>②学校説明会、進学個別相談会の参加者数は前年度より増加したか。 | ①ボランティアガイダンス(85名参加)、ボランティア活動講演会等を開催した。22名がボランティアに参加し、単位修得者は2名であった。地域貢献デーでは、近隣9施設での活動や道路の清掃等を行った。また、PTAと協働で校内緑化活動やクリーン作戦(除草、ペンキ塗り等)等の環境整備ができた。<br>②学校説明会の参加者数は、昨年並みであったが、1月に78名の参加がありニーズに応えることができた。また、本校を理解できる授業風景を動画で公開した。 | ①様々な方策を取っているが、ボランティアに参加する生徒数は横ばいを続けている。活動しやすい施設等の開拓を図るとともに、広報活動に力を入れる。<br>①クリーン作戦は生徒が参加しやすい時期を検討し、参加者の増加を図る。<br>②中学校訪問や学校説明会の時期は今年度を踏まえて設定する。動画による特色の紹介を継続していく。 | (PTA)<br>②文化祭の学校説明会に来た親子が楽しそうに校内を見ていた。<br>(学校評議員)<br>①ボランティアについては、社会福祉協議会の行事にも一緒に参加できるとよい。  | ①地域の社会福祉協議会のボランティア講演を毎年3月に実施している。<br>①今年度のボランティアの報告書の中にも、支えあうことを初めて学んだと書いてきた生徒もいる。<br>ぜひ、今後も参加させたい。 | ①地域の防災行事への生徒の積極的な参加についてさらに進める。<br>①職業体験や防災学習を行う研修旅行の内容を充実させる。<br>②学校ホームページの更新を定期的実施する。       |
| 5 | 学校管理<br>学校運営 | 教育環境の変化に迅速に対応し、安全安心に基づいた信頼される学校づくりを推進する。 | ①自他を大切にし、いのちの教育や防災教育を推進することで安全で安心な学校づくりを行う。<br>②事故不祥事の未然防止に向けて組織的に取り組む。                        | ①自他の安全を図り、いのちを大切にす教育や地域と連携した防災教育を推進する。<br>②事故・不祥事防止のための職員研修を充実させる。<br>②会計処理の様式等の共通化を図る。                              | ①いのちを大切にす取組みの実践をさらに充実させることはできたか。<br>①地域等と連携した防災に関する取組みは実施できたか。<br>②共通の会計様式は作成できたか。            | ①DIG研修を15・16期防災係対象に、喫食訓練を16期と15・16期防災係対象に行った。<br>①近隣自治会の防災訓練に防災係生徒と職員が参加した。<br>②事故防止会議では復命研修を取り入れ充実した研修ができた。<br>②会計書式の改訂・共通化を行い事故防止に努めた。   | ①いのちを守る教育と防災教育がより実効的なものになるよう着実に進めているので今後も継続していく。地域及び保護者との連携をより進めていく。<br>②事故防止会議では復命研修をさらに増やして充実させる。<br>②適正かつ迅速な会計処理に努める。  | (学校評議員)<br>①地域ケアプラザの防災訓練で生徒に水をくみ上げる訓練に参加してもらった。体育館の避難生活の体験もできるとよい。  | ①命を守る取り組みとしては、「3・11を風化させない」をねらいに、浪江町で実際に被災された伊藤真理さんをお招きしての講演会を実施した。                                 | ①いのちの教育に合わせ地域と連携をした防災教育を充実させる。<br>②事故不祥事防止に向けた職員の復命研修をさらに充実させる。                              |